



アンネのバラ

# 吉高人権だより

2023年 3月号

愛媛県立吉田高等学校 人権委員会発行

スポーツにおけるドーピング問題から感じること

3年学年主任 本倉 保

素晴らしい感動を与えてもらったスポーツイベントは、次の大会も観戦したい、応援したい。できれば、直接会場に足を運び、雰囲気を感じて応援したい。そう、考える人は多いと思います。しかし、ドーピングという行為が純粋に感動する気持ちを、少し違った感覚に変えてしまうこともあります。

スポーツにおいて、ドーピングが原因で最初の死亡例が報告されたのは1886年だそうです。また、最近では、オリンピック等の世界大会が開催されると、ニュース等でもドーピング問題が取り上げられる場合もあり、皆さんもドーピングという行為が問題だということは理解していると思います。一生懸命努力し、自らの肉体・技術と精神力を鍛え上げ成績を残そうとする人、かたや禁止薬物を使い肉体を改造し成績を残そうとする人。どちらが正しい姿かは一目瞭然です。

また、ドーピングを行った人たちは、その後の生活に支障をきたす例や死亡する例があるように、身体に大きな影響を与える報告もあります。しかし、アンフェアなドーピングを選ぶ人が後を絶ちません。これを組織的に行ったりすれば人権を侵害していることになると思います。そもそも、ドーピング行為は、平等という意識をなくし、人々が持つ、破ってはならない道徳心をなくしてしまう気がします。それを、本来の純粋で公平な姿にもどそうとアンチ・ドーピング運動が生まれたのだと思います。

世界的なスポーツイベントは、観て楽しかった、熱くなった、感動した。などの豊かな気持ちにしてくれます。その後のドーピング行為報道により、心地よい余韻が消されてしまうことが今後はないことを願っています。



## 【人権・同和教育ホームルーム活動】



2月17日（金）、1・2年生が人権・同和教育ホームルーム活動を行いました。1年生は「人権問題を考えるIV」として主に同和問題を取り上げ、教科書無償運動などの同和問題解決への取組が、被差別部落の人たちだけでなく他の人々のためにもなっていることを学びました。2年生は、「人権の歴史IV」として戦後の同和問題解決の取組の歴史を取り上げ、環境の改善は進んできたが、差別意識の解消についてはまだまだ課題があることを学びました。

生徒の感想を紹介します。

差別をなくすためには、自分も相手も大切に平等に接する。自分が気付いてないだけで、差別しているかもしれない、ということを理解してからじゃないといつまでもなくなる。

インターネットが普及してきた今だからこそ調べることが身近になってきているので、知識を増やしていくことで差別を減らせる。

これまで小学校、中学校で教科書が無償で使えたのは、部落差別を受けていた人たちが子供たちに平等に教育を受けさせてほしいという強い思いがあったからだと知ることができた。